

一

問 1 ア 犠牲      イ 疲弊      ウ 施      エ 気概      オ 思慮

問 2 A ウ      B ア      C エ

問 3 a 厭世      b 刹那的快楽

問 4 現実から目を逸らしたまま生の意味を肯定できる場所にとどまろうとする態度

問 5 現実の醜さから目を逸らせず、ひとつひとつの生命の意味を認めようという態度を表すから。

問 6 人物名      ウ

判断できる理由

戦乱に明け暮れる世界では恐怖や臆病ゆえに現実を直視せず、「墓所の庭」では現実の世界を完全に忘却してしまい、生の意味を肯定できる場所にとどまろうとしたから。

問1      ア 口癖      イ 循環      ウ 羨      エ 空洞      オ 唐突

問2      手提げを盗もうとしていたし、警告の声をかけたのも意識的な行動ではなかったのに、おばあさんに心からの感謝を示されたから。

問3      イ

問4      もう盗みはしないと決意していたのに、いざ盗みを行えそうな状況になるとそうしたくなる気持ちを自制できないということが分かってしまったため、本当に盗みをやめられるのか不安になっている状態。

問5      以前は、主人公に盗みをやめてやり直す動機を与えてくれる存在は骨だけであり、友達や先輩とは距離を置いた関係しか持とうとしなかったが、朋子からのいつもと違う文面のメールや先輩からの着信によって、友達や先輩もやり直すためのつながりとなる存在であることに気づいたこと。

問1

穂香の「のっぺらぼう」という表現からは、性の区別がない状態に対して否定的な態度が見受けられるのに対し、裕生の「透明な」という表現からは肯定的態度を持つていることが分かる。

問2

① 穂香が、自分が女性として認められることに価値を認める発言をしたこと。

② 女性として認められることに価値を置くということは、異性愛の女性的セクシュアリティのジレンマを引き受け、「大人の女性になる」のを選択しているということを意味していて、それは異性愛市場にすでに参加していることを示唆するという考え方。

問3

裕生は、異性愛の女性的セクシュアリティのジレンマを引き受けたくないため、それを象徴している「わたし」という自称詞を使いたくない。しかし、〈子ども〉でも〈女〉でもないアイデンティティを表すちょうどいい言葉がないから。